

市町村名		金武町					
平成26年度(繰越)沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	7-①	ギンバル地区電線地中化事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(13)-イ	
担当部署名	基地跡地推進課	事業実施(予定)年度	平成26~28年度		沖縄振興基本方針該当箇所	駐留軍用地跡地の計画的な整備 Ⅲ-8	
事業内容	平成23年7月に返還されたギンバル訓練場において田圃と海と川を活かしたウエルネスの里をテーマに跡地利用のための整備を進めている。そのギンバル訓練場跡地では電気や電話の電線を地中に埋設し景観に配慮した空間を整備し、周辺住民や観光客を対象とした誘客を図り町の活性化を目指すものである。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	26年度	26年度(繰越)	27年度	28年度	29年度	
		(a)当初予算額	320,000	-			
	(b)予算現額	216,796	-				
	(c)増減額(b-a)	▲103,204	-				
	(d)繰越額	-	216,796				
	A.計(b+d)	216,796	216,796				
	B.執行済額	0	48,819				
	うち交付金充当額	0	39,054				
	次年度繰越額	216,796	-				
	執行率(%) (B/A)	0.0%	22.5%				
予算の状況の説明		予算の減額については、当初、ギンバル地区全体への入線を予定していたが、計画中の施設については、その配置や電力の需要量などに未確定部分がある事から、地中化を見直すこととなり、入線ルートや延長の変更調整を行った。その結果、事業延長が1,928mから1,306mに減となり、それに伴って事業費が減となった。これらの変更調整に不測の日数を要したため、年度内完了が困難な状況となり繰越を行った。 また、執行率については、当初、事業費は沖縄電力の電線共同溝工事基準単価である、1km当たり1.66億円を基に積算を行った。しかし、調査・設計業務において、本事業地の地域条件が、沖縄電力が示した単価の基準である商業地域等と違う事から、地上機器等の設置数やケーブル引込み延長が低く抑えられ、事業費が減となった。					
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況				
	電気・電話線の地中化	目標	(調査設計・入線工事の実施)	()	()	()	
		実績	調査設計・入線工事の実施				
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	電線を地中化するために、ケーブル入線に係る調査設計及び入線工事を実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(年度)	26年度	27年度	28年度	目標値(年度)
	電線地中化総延長:2,414m 平成26年度 L=1,306m	目標	(0m)	(1,306m)	()	()	()
		実績		1,306m			
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
進捗状況説明	平成28年3月に1,306m分の電線地中化の整備が完了し、各施設へ電力の供給を開始している。電線地中化を実施した事で、台風などによる停電等の防止など、施設利用者の安全性・利便性向上につながった。今後、ギンバル地区内の施設整備の進捗に合わせて、地中化事業を実施し、全体を無電柱化していく。						

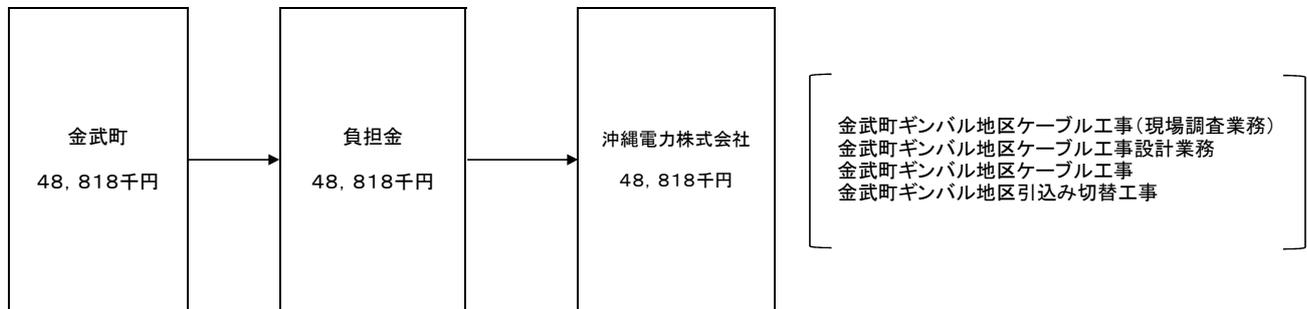
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>本事業地であるギンバル訓練場跡地は、平成23年7月に返還され、田園と海と川を活かしたウエルネスの里をテーマに跡地利用のための整備を進めている。このような地区において、景観に配慮した整備を行い誘客を図るため、電線地中化事業を実施した。</p> <p>平成26年度事業では、整備済みである医療・リハビリ関連の4施設について、電力供給のための電線地中化を実施し(延長1,306m)、平成28年3月より電力供給を開始している。</p>	<p>平成26年度事業においては、沖縄電力との入線ルートや延長の変更調整を行った事で、事業費が減となり、それらの調整に不測の日数を要したため、平成27年度に繰越して事業完了となった。今後は、このような調整を含め、速やかに事業執行する事が課題である。</p>

今後の取り組み方針

現在、ギンバル地区における医療・リハビリ関連の4施設について、地中電線による電力供給が開始された事で、台風などによる停電等の防止など、施設利用者の安全性・利便性向上につながった。しかし、地区全体としては未入線の部分があり、今後、周辺の施設整備の進捗に合わせて地中化事業を推進していく事で、地区全体で景観に配慮した空間を整備し、周辺住民や観光客を対象とした誘客を図り町の活性化を目指す。また、その際には、地中化事業者との調整を十分にを行い、スムーズな事業執行を行っていく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
48,818	48,818	39,054	9,764	0



資金の流れ、費目・使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○支出先の選定については、電力供給は電線管理者である沖縄電力しか行えない事から妥当であったと考える。
	△	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	△予算規模については、沖縄電力の電線共同溝工事基準単価である、1km当たり1.66億円を基に積算を行ったが、地域条件を踏まえて積算し、不用額を少なくする必要があると考える。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途については、金額の確定の際に検査・確認しており、事業目的の達成に必要なものであり適正であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	